第3回MPC勉強会

鶴原康太

November 9, 2023

今回の目標

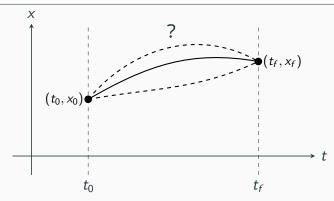
$$-\frac{\partial V}{\partial t}(x,t) = \min_{u} H\left(x, u, \left(\frac{\partial V}{\partial x}\right)^{T}(x,t), t\right)$$

- 1. 復習
- 2. 動的計画法
- 3. HJB 方程式
- 4. 最小原理
- 5. MPC 導入

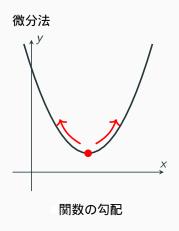
今までの内容覚えてますか? 復習しましょう!!

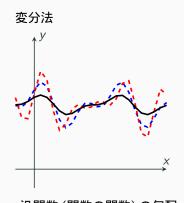
最適制御とは

状態方程式
$$\dot{x}(t) = f(x(t), u(t), t)$$
 評価関数 $J = \frac{\varphi(x(t_f))}{\varphi(x(t_f))} + \frac{\int_{t_0}^{t_f} L(x(t), u(t), t) dt}{\chi_{t_0}}$ 終端コスト ステージコスト



变分法1





变分法2

評価関数
$$J = \varphi(x(t_f)) + \int_{t_0}^{t_f} L(x(t), u(t), t) dt$$

評価関数 J は関数 x(t), u(t) の関数なので汎関数

二点境界値問題の解を用いることによって

初期値条件:
$$x(t_0) = x_0$$

終端条件: $\lambda(t_f) = \left(\frac{\partial \varphi}{\partial x}\right)^{\top}$
随伴方程式: $\frac{d\lambda}{dt} = -\left(\frac{\partial H}{\partial x}\right)^{\top}$

状態方程式: $\frac{dx}{dt} = f(x, u, t) = \left(\frac{\partial H}{\partial \lambda}\right)^{\top}$

最適制御入力条件: $\frac{\partial H}{\partial u} = 0$

6

变分法

微分法

関数の勾配を考える 停留するとある関数の最大 or 最小 点の変動を考える



变分法

汎関数 (関数の関数)の勾配を考える停留するとある関数の全体を最大 or 最小関数 の変動を考える

微分法ではある曲線を最小化 (最大化) することを考えていたけど、変分法ではある評価 関数に基づいて関数全体を最小化 (最大化) する関数を求める

偏微分と似た考え方をする

二点境界値問題の解

Euler-Lagrange 方程式を満たす

制約を含んだ場合

第1回、第2回まとめ

第1回

最適制御問題を予め、時間的に離散化することによって 最適化問題に落とし込んだ

第2回

変分法を利用して2点境界値問題の最適性条件を導いた

最適性条件まとめ

- 時間を考慮しない —

- 線形 MPC ---

予め時間を考慮して出した式から出た最適化問題を 解いたから最適化問題自体は時間を考慮不要

Lagrange の未定乗数法

$$L(x,\lambda) = f(x) + \lambda^{T} g(x)$$

KKT 条件

$$\nabla f(x^*) + \sum_{i=1}^m \lambda_i^* \nabla g_i(x^*) + \sum_{j=1}^n \mu_j^* \nabla h_j(x^*) = 0$$

$$g_i(x^*) \le 0 \quad \text{for all } i$$

$$\lambda_i^* \ge 0 \quad \text{for all } i$$

$$\lambda_i^* g_i(x^*) = 0 \quad \text{for all } i$$

$$h_i(x^*) = 0 \quad \text{for all } j$$

・時間を考慮 -

- 非線形 MPC -

時間で離散化せずに直接最適化問題を解きたい

Euler-Lagrange 方程式

$$\frac{\partial L}{\partial x} - \frac{d}{dt} \left(\frac{\partial L}{\partial \dot{x}} \right) = 0$$

- 動的計画法 —

最小原理

最適化の多様な定式

- Q. なぜ似たようなものがいくつもあるのか??
- A. 同時期 (冷戦期) に 2 人の天才によって最適制御が定式化されたから





Bellman

HJB 方程式





最小原理

88888888

Pontryagin

- 1. 復習
- 2. 動的計画法
- 3. HJB 方程式
- 4. 最小原理
- 5. MPC 導入

$$V(x,t) = \min_{u[t,t+dt]} \left(L(x,u,t)dt + V\left(x + f(x,u,t)dt,t+dt\right) \right)$$

方針:

問題を分割して最適制御を考える

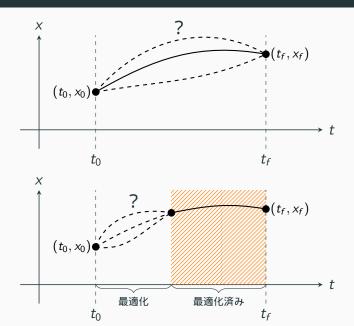
最適制御

状態方程式
$$\dot{x}(t) = f(x(t), u(t), t)$$
 評価関数 $J = \frac{\varphi(x(t_f))}{f_{t_0}^{t_f}} \frac{L(x(t), u(t), t)}{f_{t_0}^{t_f}} \frac{L(x(t), u(t), t)}{f_{t_0}^{t_f}} \frac{dt}{dt}$ 終端コスト ステージコスト

価値関数 V(x,t): 評価関数 J を最小にする値

$$V(x,t) = \min_{u[t,t_f]} \left(\varphi(x(t_f)) + \int_t^{t_f} L(x(\tau), u(\tau), \tau) d\tau \right)$$
$$V(x,t_f) = \varphi(x(t_f))$$

最適化を価値関数を探すことだと考える



Bellman 方程式

$$V(x,t) = \min_{u[t,t+dt]} (L(x,u,t)dt + V(x+f(x,u,t)dt,t+dt))$$

$$V(x,t_f) = \varphi(x(t_f))$$

$$\begin{split} V(x,t) &= \min_{u[t,t_f]} \left(\varphi(x(t_f)) + \int_t^{t_f} L(x(\tau),u(\tau),\tau) d\tau \right) \\ &= \min_{u[t,t_f]} \left(\int_t^{t+dt} L(x(\tau),u(\tau),\tau) d\tau + \frac{\varphi(x(t_f)) + \int_{t+dt}^{t_f} L(x(\tau),u(\tau),\tau) d\tau}{\int_{t+dt}^{t_f} L(x(\tau),u(\tau),\tau) d\tau} \right) \\ &= \min_{u[t,t+dt]} \left(\int_t^{t+dt} L(x(\tau),u(\tau),\tau) d\tau + \frac{\min_{u[t+dt,t_f]} \left(\varphi(x(t_f)) + \int_{t+dt}^{t_f} L(x(\tau),u(\tau),\tau) d\tau \right)}{\int_{t+dt}^{t+dt} L(x(\tau),u(\tau),\tau) d\tau} \right) \\ &= \min_{u[t,t+dt]} \left(\int_t^{t+dt} L(x(\tau),u(\tau),\tau) d\tau + \frac{V\left(x + \int_t^{t+dt} f(x,u,\tau) d\tau,t + dt\right)}{\int_t^{t} L(x(\tau),u(\tau),\tau) d\tau} \right) \end{split}$$

Bellman 方程式

$$V(x,t) = \min_{u[t,t+dt]} (L(x,u,t)dt + V(x+f(x,u,t)dt,t+dt))$$

次元の呪い

次元の呪いは、状態空間や行動空間の次元数が増加するにつれて、必要な計算量やメモリが指数的に増加する現象 2 次元の格子が 10 の場合、合計 100 のセルが存在します。しかし、 10 次元の格子が各次元に 10 のセルを持つ場合、合計で $10^10 = 10,000,000,000$ のセルが存在します。このように、次元が増加するにつれて格子の数が指数的に増加し、それに伴い計算量も指数

的に増加します。

動的計画法まとめ

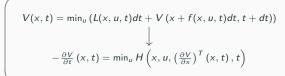
Bellman 方程式

$$V(x,t) = \min_{u[t,t+dt]} (L(x,u,t)dt + V(x+f(x,u,t)dt,t+dt))$$

動的計画法とは ・・・ 大きな問題を小さな部分問題に分解し、解を得る手法

- 最適な性質を持つ
- 計算結果を保存して再利用 (メモ化)
- 次元の呪いで現実的には解けない場合がある

- 1. 復習
- 2. 動的計画法
- 3. HJB 方程式
- 4. 最小原理
- 5. MPC 導入



方針:

微分の形にしたい → Taylor 展開 Hamiltonian でまとめられそう

HJB 方程式

$$V(x,t) = \min_{u} \left(L(x,u,t)dt + V\left(x + f(x,u,t)dt, t + dt\right) \right)$$

(x,t) で Taylor 展開する

$$V(x + f(x, u, t)dt, t + dt) \simeq V(x, t) + \frac{\partial V}{\partial x}(x, t) f(x, u, t) dt + \frac{\partial V}{\partial t}(x, t) dt$$

$$V(x,t) = \min_{u[t,t+dt]} \left(L(x,u,t)dt + V(x,t) + \frac{\partial V}{\partial x}(x,t) f(x,u,t) dt + \frac{\partial V}{\partial t}(x,t) dt \right)$$

$$0 = \min_{u[t,t+dt]} \left(L(x,u,t) + \frac{\partial V}{\partial x}(x,t) f(x,u,t) + \frac{\partial V}{\partial t}(x,t) \right) dt$$

Hamiltonian でまとめる

$$H(x, u, \lambda, t) = L(x, u, t) + \lambda^{T} f(x, u, t)$$

$$H\left(x, u, \left(\frac{\partial V}{\partial x}\right)^{T} (x, t), t\right) = L(x, u, t) + \frac{\partial V}{\partial x} (x, t) f(x, u, t)$$

$$-\frac{\partial V}{\partial t}(x,t) = \min_{u} H\left(x, u, \left(\frac{\partial V}{\partial x}\right)^{T}(x,t), t\right)$$

- 1. 復習
- 2. 動的計画法
- 3. HJB 方程式
- 4. 最小原理
- 5. MPC 導入

別の観点から最適制御を考える

最小原理1

最小原理2

もちろん最小原理から HJB 方程式を導ける

最適性条件まとめ

ラグランジュの未定乗数法

KKT 条件

オイラーラグランジュ方程式

動的計画法 (new)

HJB 方程式 (new)

最小原理 (new)

動的計画法から HJB 方程式を導いたが、最小原理からも導けるここに各関係の図を貼る

- 1. 復習
- 2. 動的計画法
- 3. HJB 方程式
- 4. 最小原理
- 5. MPC 導入

MPC

Euler-Lagrange 方程式では入力に状態を含んでいないので、 状態が変化 (外的要因によって) する現実システムだと扱い にくい

HJB 方程式は入力に状態を含んでいるが、偏微分方程式なので扱いにくい

現実問題に落とし込んだのが MPC

評価区間が無限の MPC の解は HJB 方程式と一致するはず (たぶん...)

参考資料

書籍

- 非線形最適制御入門(名著です)
- しっかり学ぶ数理最適化 (最適化全般について)
- はじめての最適化(変分法の説明が分かりやすいです)